

生物多様性評価システムの開発

——エコロジカルネットワークの創出に向けて——

戸田建設 株式会社

鈴木 孝彦, 森 一紘, 半田 雅俊,
澤田 晃也, 新井 裕一朗,

キーワード

①生物多様性	②定量評価	③緑地計画
--------	-------	-------

梗概

本稿は、生物多様性の保全を行うために必要なデータベースを構築するとともに、定量評価を行うために開発したツールについて紹介する。ツールの活用は、建物の緑地計画時や設計時、施工時とし、生態系や生物についての知識が少ない人でも敷地情報や緑化計画をパソコンに入力するだけで、その計画の評価点を web 上で簡単に算出することができるシステムである。

評価システムの主な特徴

- ①生物の生態情報は、利用者により日々更新されている。社内イントラネットを通じることで、どこからでも、必要な情報を更新して使用することができる。
- ②敷地の大きさ、所在地等の簡単な情報を入力するだけで、その緑地計画の生物多様性評価値を算出すると共にわかるだけでなく、その計画地における最大の評価値となる緑地計画（樹木の種類と本数等）を示すことができる。
- ③いくつかの変更案を評価点で検討し、相対比較できる。
- ④データベースには、生物（植物、鳥、昆虫等）単体のデータとともに、周辺地域や公園とそこに生息している生物の地域情報、絶滅危惧情報、植物と生物の相性度を独自に調査し、データベース化している。（現在、東京都 23 区のみ）
- ⑤使用者は、周辺環境にとって重要な生物を評価種として簡単に選定することができる。
- ⑥選定をした評価種にとって良い生息環境かどうかを評価できる。
- ⑦CASBEE における「生物環境の保全と創出」の項目の評価も同時に行うことができる。